



ユーザーマニュアル

第17章 特性定義

TREND ROAD Designer 2026
2026年9月作成

※解説図に一部英語表記があり、実際の画面と異なる場合があります。ご了承ください。

第17章 特性定義

特性定義は、作図、3Dモデリング、および数量計算で使用されます。この章では、TRDで使用する様々な特性定義および新しい特性定義の編集と作成について説明します。

目次

17A 特性定義の概要	1
17A.1 特性定義とレイヤ	2
17A.2 キャビネットの特性要素 (TREND ROAD モデル)	3
17A.3 キャビネットでの特性定義 (TREND ROAD スタンダード)	5
17B 特性定義のタイプとライブラリ	8
17B.1 路線線形および線形の特性定義	8
17B.1.a 道路モデルにおける線形の特性定義	10
17B.1.b 道路モデリングのための標準断面ジオメトリの作成	11
17B.2 メッシュの特性定義	12
17B.2.a 数量算出におけるメッシュの特性定義	12
17B.2.b 土工量計算のための土工量タイプの設定	14
17B.3 道路モデルの特性定義	16
17B.4 地形の特性定義	17
17C 特性定義の設定と編集	19
17C.1 特性表示様式と要素テンプレート	20
17C.2 要素テンプレートの編集	21
17D 新しい特性定義の作成	22
17E 同期されていない特性定義や路線注釈の修正	25

出典

This manual is created by the Federal Highway Administration (FHWA) and translated by Fukui Computer.

We sincerely appreciate FHWA's permission to use the manual.

このマニュアルはアメリカ連邦高速道路局（FHWA）が作成し、福井コンピュータが翻訳したものです。FHWAよりマニュアルの使用許可をいただいております。

使用データ

・My City Construction 静岡県下田土木事務所（一）河津下田線 伊豆地域振興対策道路整備事業に伴う設計業務委託

・国土地理院「地理院タイル（標高タイル）」 URL : <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

17A 特性定義の概要

特性定義とは、要素のレイヤ、表示様式（色、線種、線幅）、動作、および機能に影響を与える属性のセットです。例えば、地形モデルの特性定義を変更すると、どの構成要素（等高線、境界線、三角形など）が表示されるかに影響します。

特性定義は、ジオメトリ要素、地形モデル、道路モデル、その他多くの要素タイプに割り当てられます。特性定義は、3Dモデリングや作図において、材質タイプや機能に基づいて要素を整理するために使用されます。数量計算では、同じ特性定義を持つすべての要素が数量レポート内で合計されます。

備考：複合要素（スマートライン、複合文字列、複合連結など）には、特性定義や特性名は含まれません。ただし、汎用要素には「特性定義を要素に付与」を使用して、手動で特性定義を割り当てることができます。

特性定義の動作や機能は、要素タイプによって異なります。例えば、線形の特性定義は比較的シンプルで、主に要素のレイヤ、色、線種に影響します。一方、道路モデルの特性定義は、道路モデルの密度（標準断面配置の間隔の倍率）など、道路のモデリングや表示設定に影響します。

特性定義はプロパティ^①に表示され、切り替えることができます。



特性名：特性定義を持つすべての要素は、特性名を持ちます。通常、重要なジオメトリ要素には論理的で適切な特性名を割り当てます。路線の基準線（中心線）、縦断、暗渠、地形モデル、道路モデル、線形テンプレート、およびサーフェステンプレートにはすべて名前を付けてください。

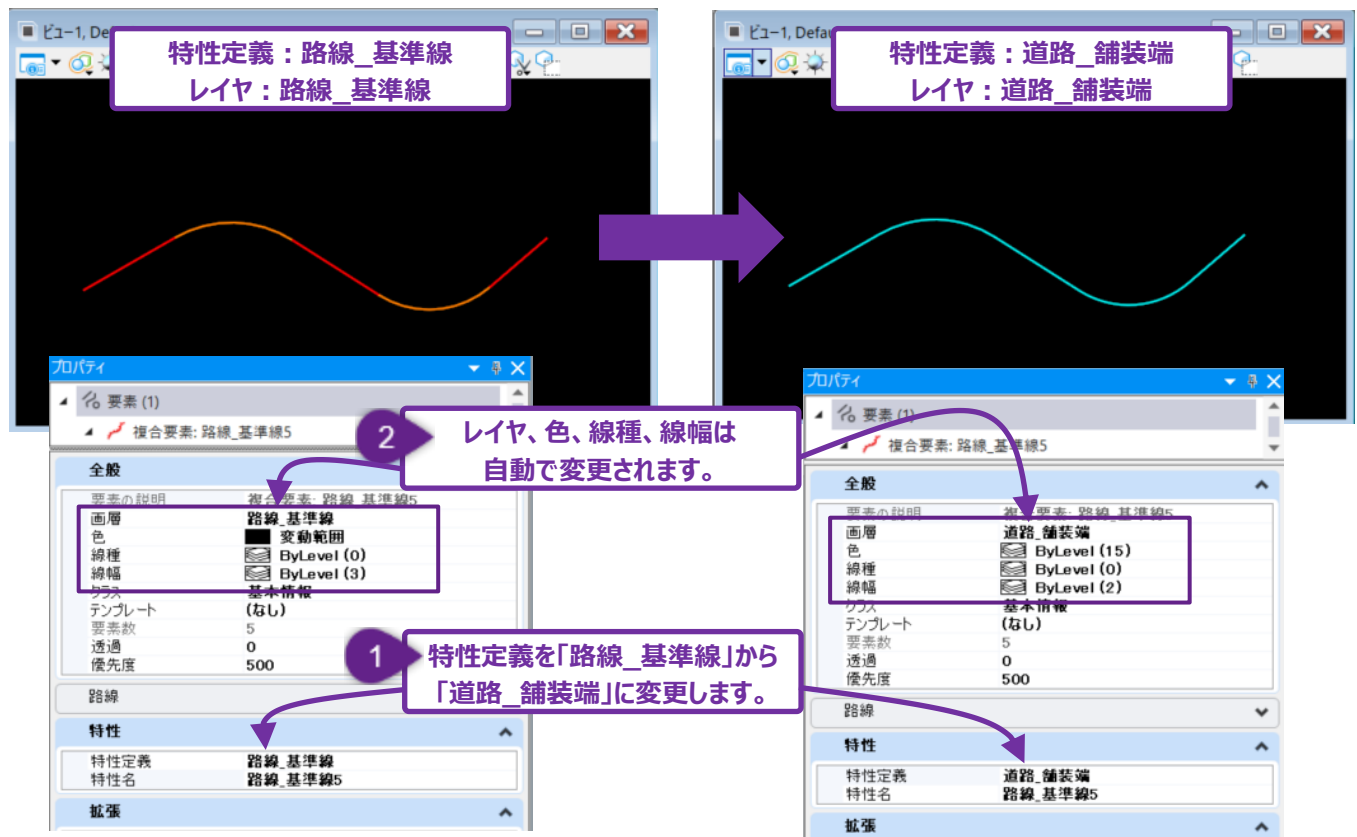
要素を作成する際に、特性名が割り当てられます。特性名を手動で入力しない場合は、特性定義の名前に基づいてデフォルトの名前が自動的に割り当てられます。

次の理由から、要素には常に論理的な特性名を割り当てる必要があります。

- 路線線形、縦断、道路モデル、地形モデルを施工測量用の物理データとして書き出される際、特性名は書き出しファイルに埋め込まれます。
- 特性名が割り当てられていない場合、[キャビネット^②]にある「TREND ROAD モデル」ドロップダウンで、要素を区別することが非常に難しくなります。

17A.1 特性定義とレイヤ

特性定義は、要素のレイヤ、色、線種、線幅、その他の図形プロパティを制御します。特性定義を変更すると、自動的にレイヤやその他の図形プロパティが変更されます。



警告: 要素に特性定義が割り当てられている場合、レイヤを手動で変更しないでください。要素を編集すると、レイヤは自動的に特性定義のデフォルトレイヤに戻ります。

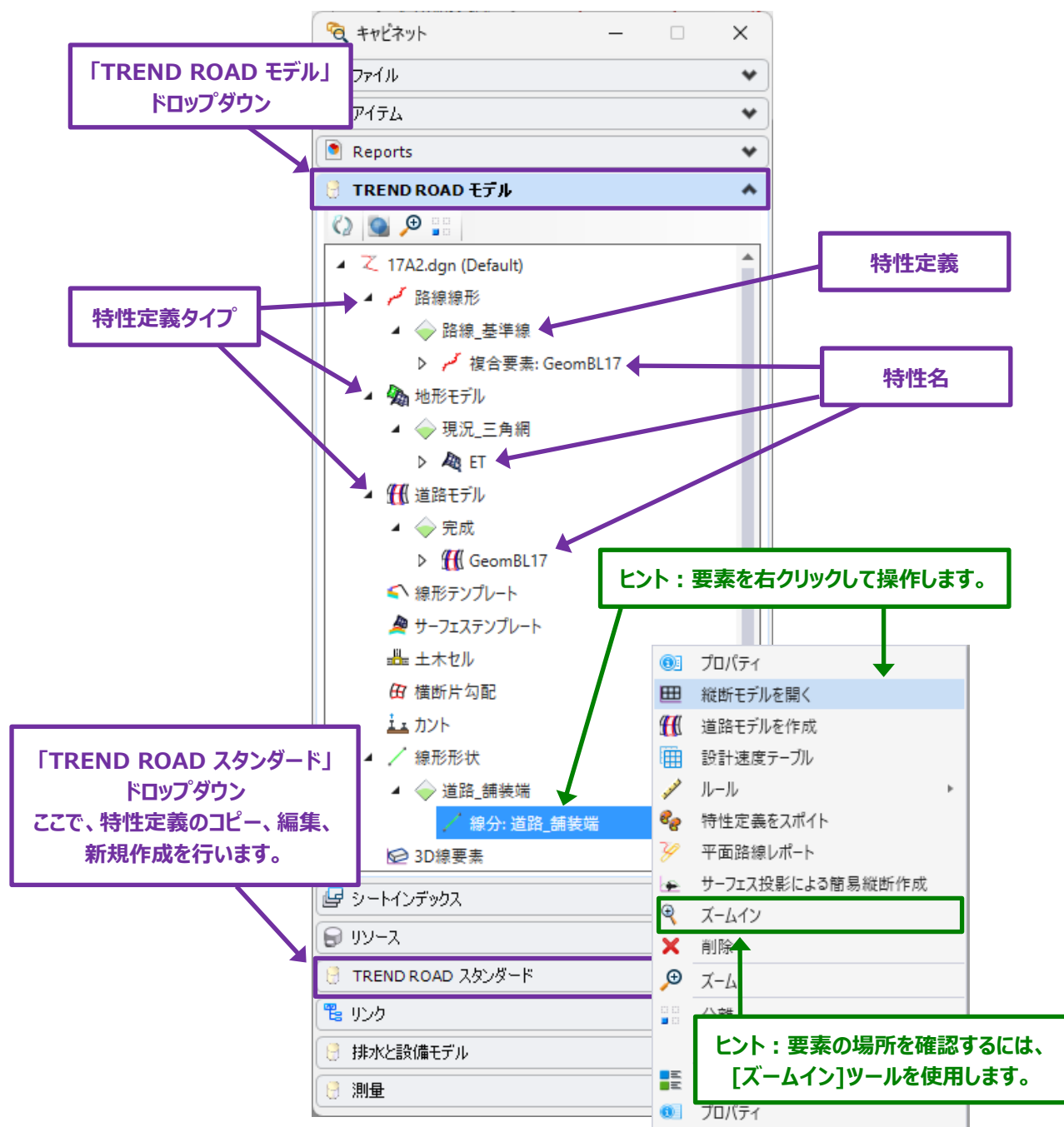
備考: 各特性定義には要素テンプレートが割り当てられています。要素テンプレートは、レイヤ、色、線種、太さ、材質などのプロパティと属性のセットです。特性定義に割り当てられた要素テンプレートとその他のプロパティを表示するには、「17C.2 要素テンプレートの編集」を参照してください。

17A.2 キャビネットの特性要素 (TREND ROAD モデル)

特性定義を含むすべての要素は、[キャビネット] の「TREND ROAD モデル」ドロップダウンに一覧表示され、各要素をここから直接操作することができます。

「TREND ROAD モデル」のドロップダウンは、以下のように構成されています。

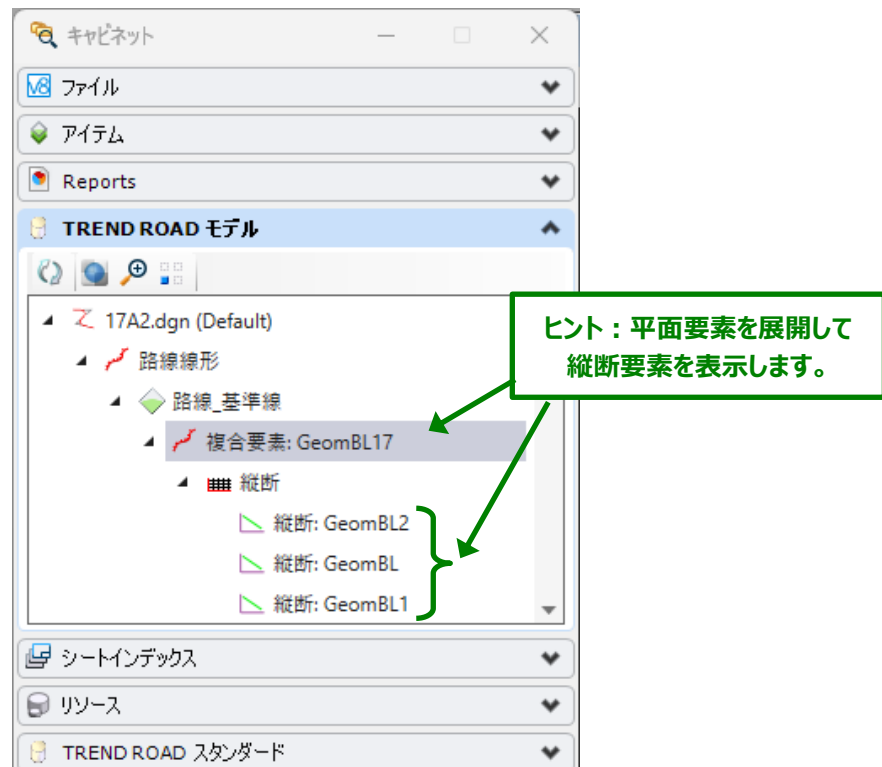
[特性定義タイプ → 特性定義 → 特性名(要素)]



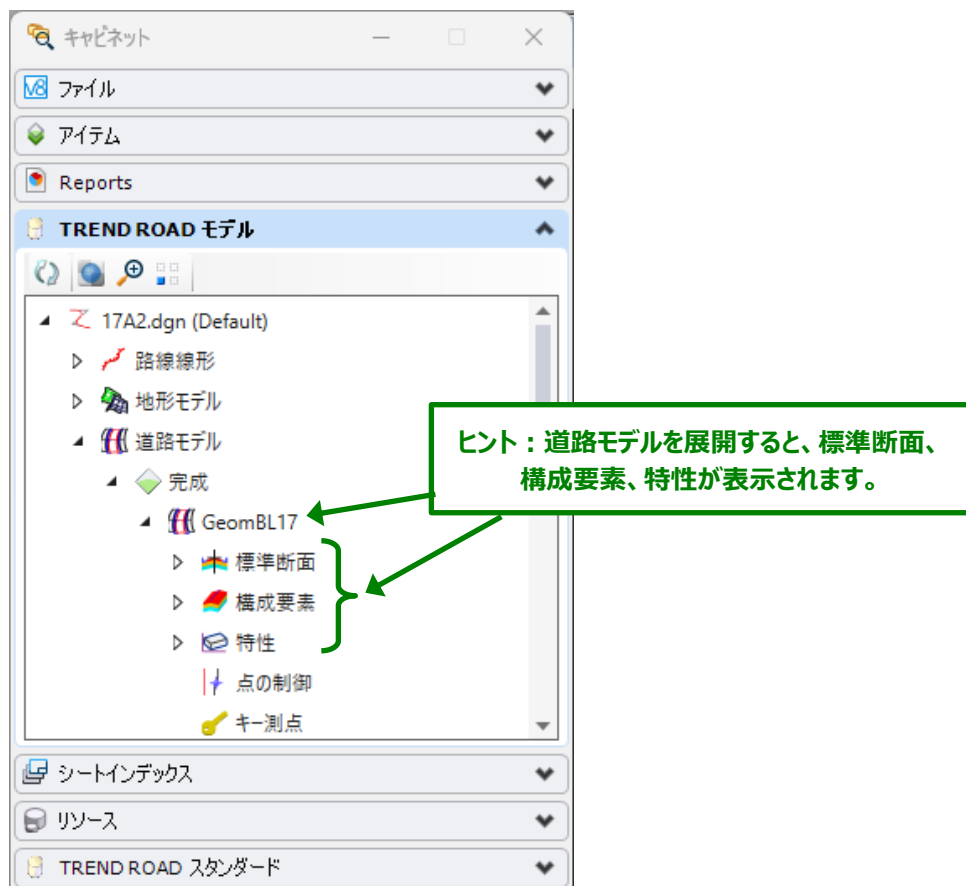
備考：「TREND ROAD モデル」ドロップダウン（上図）は、現在のTRDファイルで作成された要素を整理および操作するためのものです。「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンには、作業環境内のすべての特性定義が表示され、編集や特性定義の新規作成に使用できます。

備考：特性要素には常に適切な特性名を割り当ててください。特性名が割り当てられていないと、「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンで要素を区別することが難しくなります。

ヒント： 路線線形や線形要素の場合、対応する縦断要素は平面要素を展開することで確認することができます。



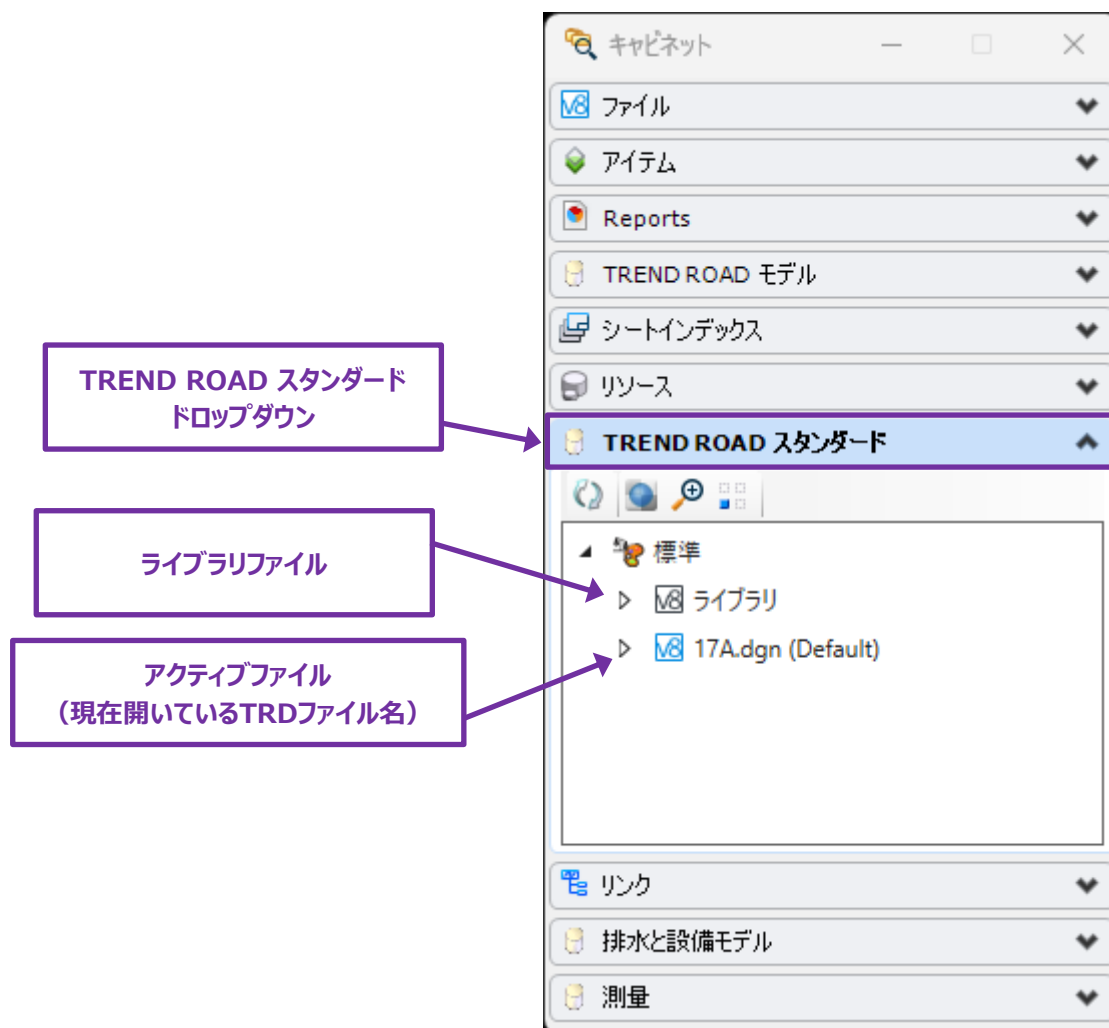
ヒント： 道路モデル アイコンを展開すると、道路モデルによって生成されるすべての線形要素（特性）と構成要素（メッシュ）が表示されます。



17A.3 キャビネットでの特性定義（TREND ROAD スタンダード）

特性定義は、[キャビネット] の「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンに表示され、編集できます。

「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンは、「ライブラリフォルダ」および「アクティブファイル（現在開いているTRDファイル名）」の2つに分かれています。



ライブラリ : JAPAN作業環境のすべての特性定義は、ライブラリのドロップダウンに表示されます。ただし、ライブラリから特性定義を編集することはできません。

現在のTRDファイル : 2番目のドロップダウンは現在のTRDファイルの名前です。現在のTRDファイルで使用されている特性定義のみがこの位置に表示されます。このドロップダウンにある特性定義は編集することができます。

ライブラリ：ライブラリドロップダウンの下には、5つの特性定義ライブラリがあります。

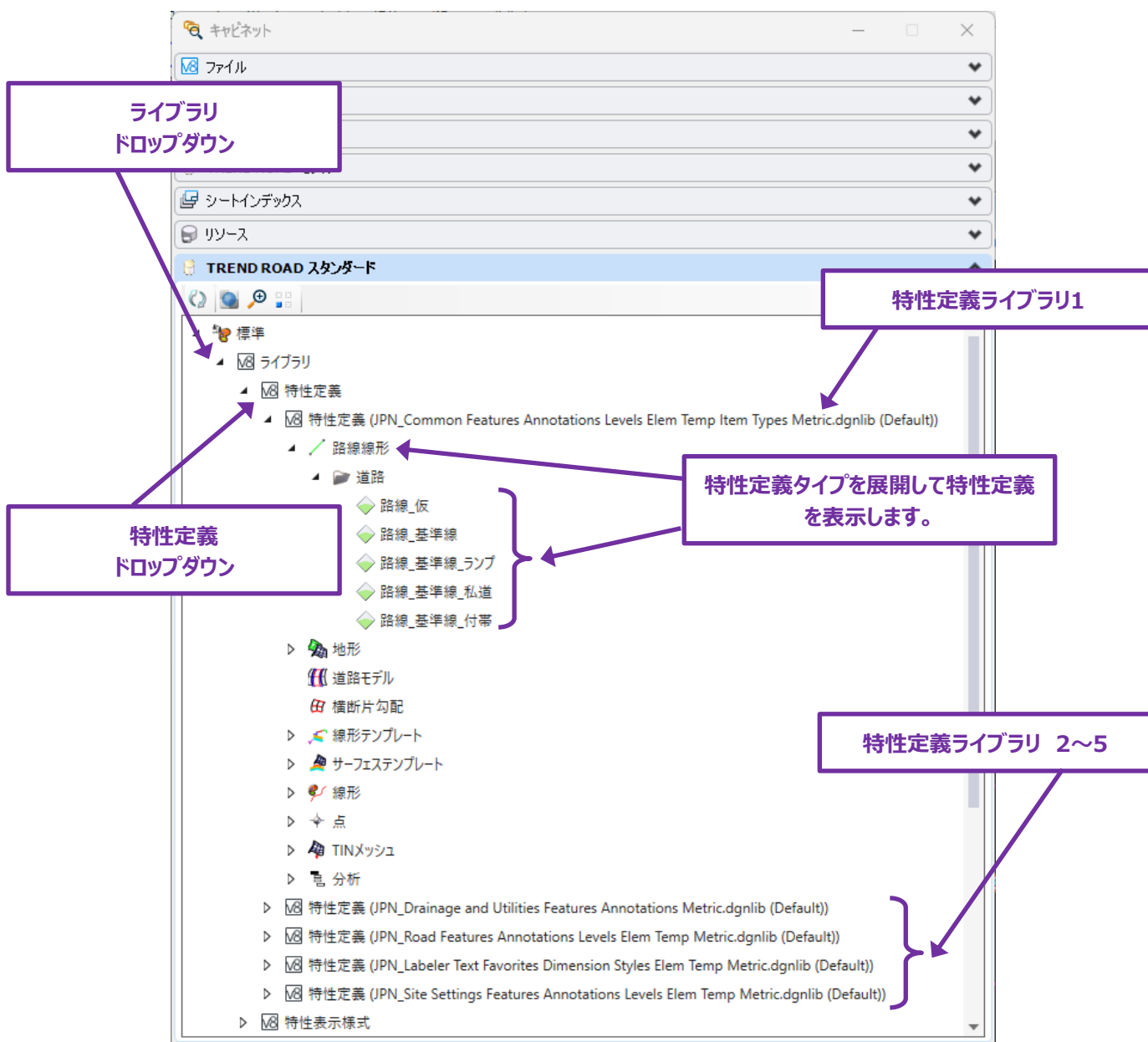
特性定義ライブラリ 1：JPN_Common Features Annotations Levels Elem Temp Item Types Metric.dgnlib – このライブラリには、JAPAN作業環境内の特性定義の大部分が含まれています。

特性定義ライブラリ #2：JPN_Drainage and Utilities Features Annotations Metric.dgnlib – このライブラリには、排水モデリングで使用される特性定義が含まれています。

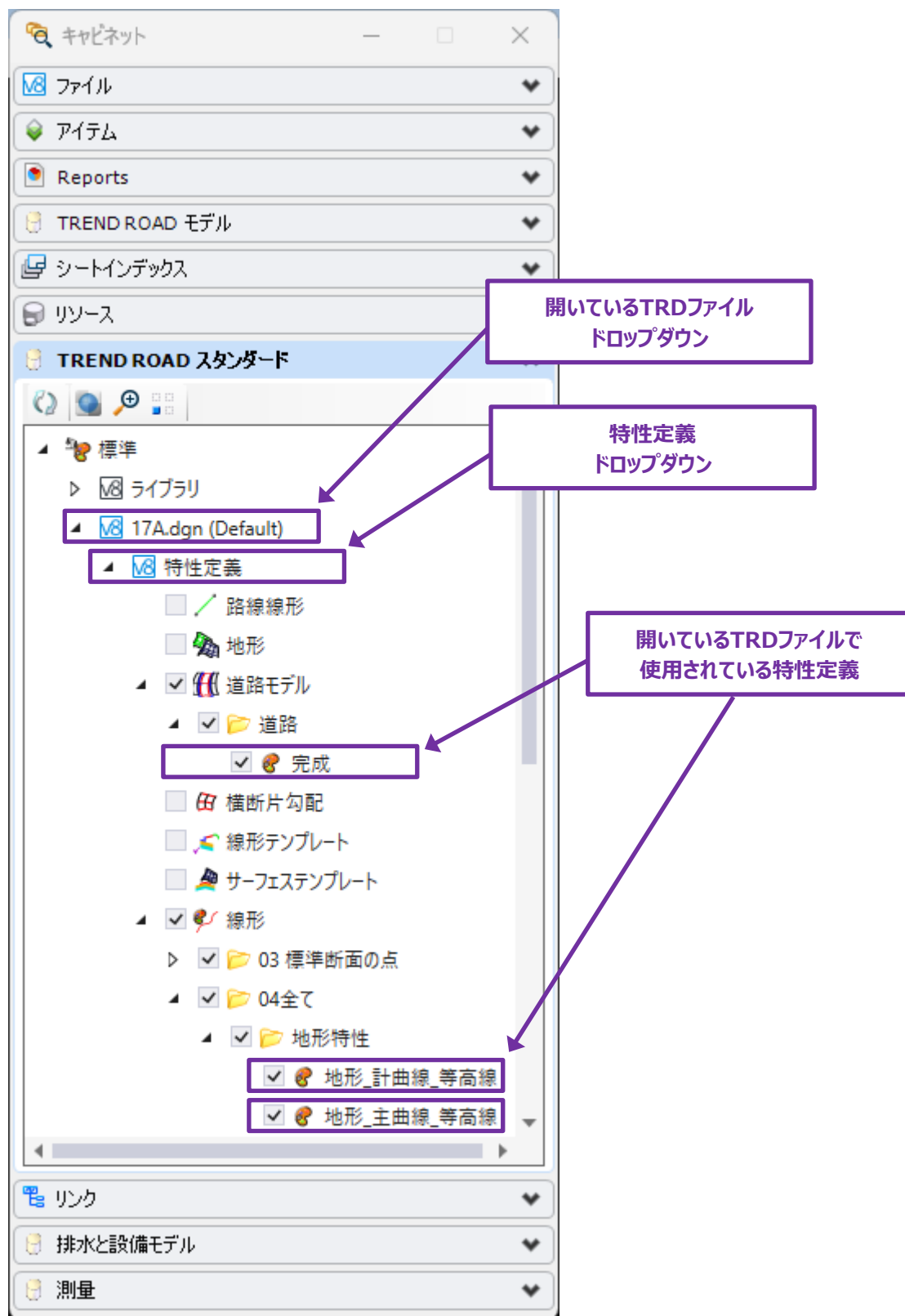
特性定義ライブラリ #3：JPN_Road Features Annotations Levels Elem Temp Metric.dgnlib – このライブラリには、道路設計に関する特性定義が含まれています。

特性定義ライブラリ #4：JPN_Labeler Text Favorites Dimension Styles Elem Temp Metric.dgnlib – このライブラリには、ラベルやお気に入り文字、寸法スタイルなどの設定が含まれています。

特性定義ライブラリ #5：JPN_Site Settings Features Annotations Levels Elem Temp Metric.dgnlib – このライブラリには、サイトモデリングに関する特性定義が含まれています。



現在のTRDファイル（Default）：現在のTRDファイルで使用されている特性定義のみがこの位置に表示されます。

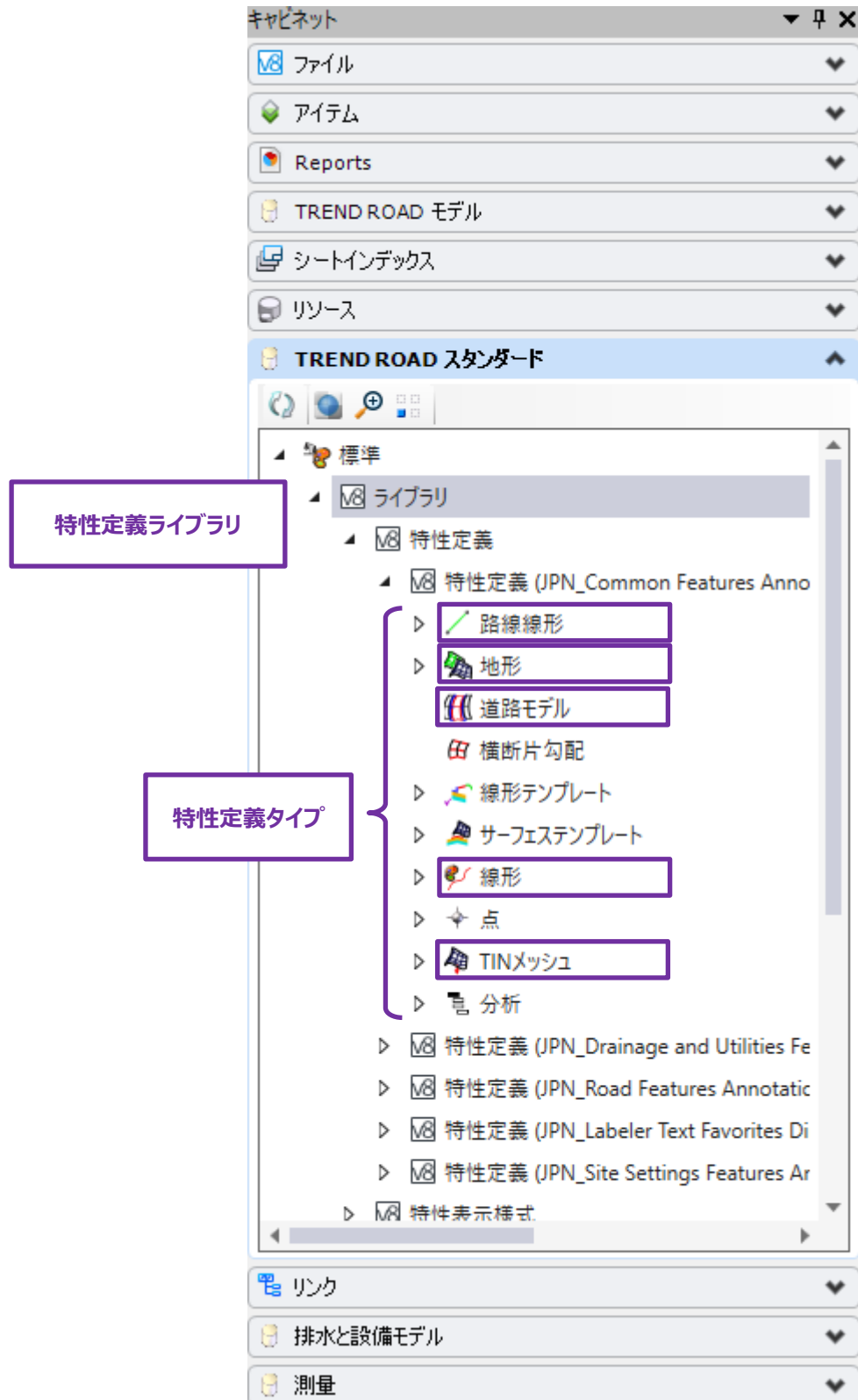


ヒント： 特性定義のプロパティを表示、編集するには、その特性定義を右クリックし「特性定義を編集」を選択します。

17B 特性定義のタイプとライブラリ

特性定義ライブラリは、要素タイプ別に分類されています。下図は、JAPAN作業環境で使用されているすべての特性定義タイプを示しています。

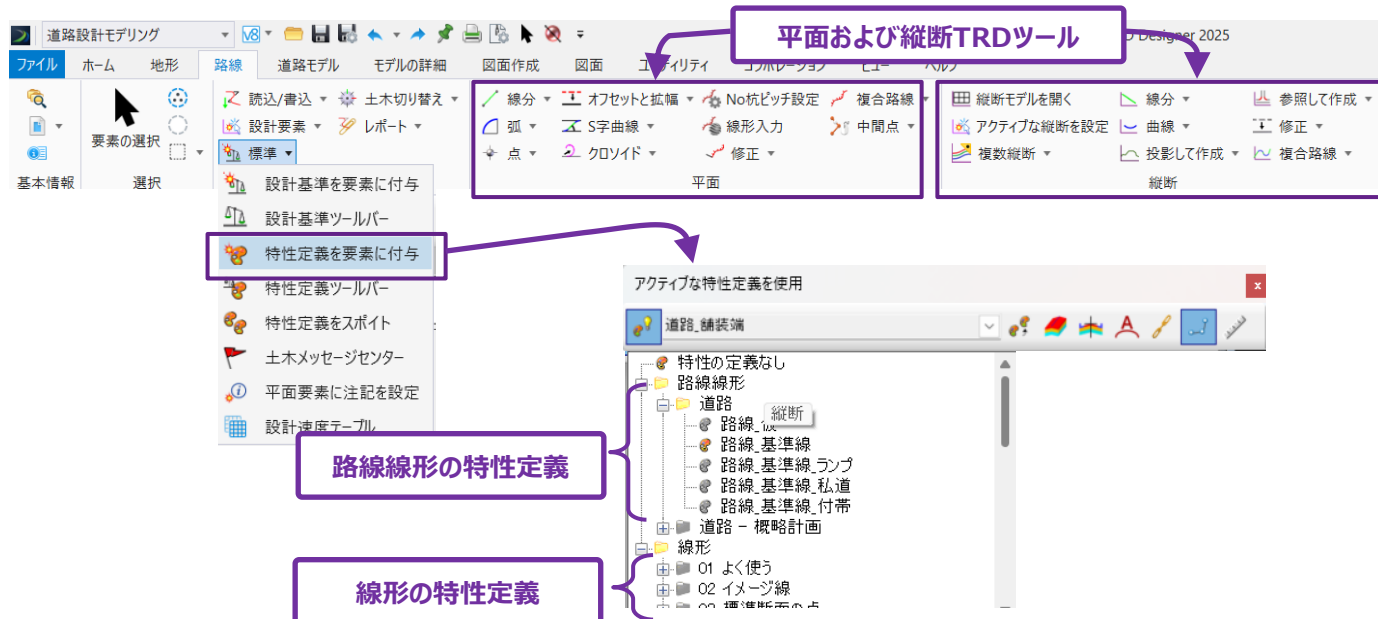
路線線形、地形、道路モデル、線形、TINメッシュの特性定義タイプがよく使用されます。これらの特性定義タイプの機能を理解することは、モデリングや数量計算の操作に重要です。



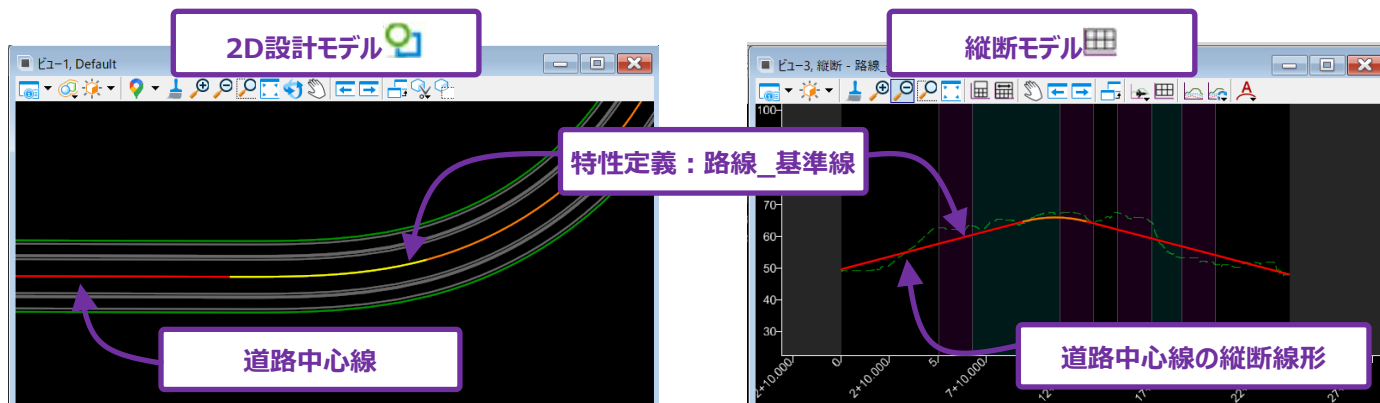
17B.1 路線線形および線形の特性定義

路線線形および線形の特性定義は、平面および縦断のTRD要素を描画するために使用されます。

すべての路線線形および線形の特性定義は、「特性定義ツールバー」に表示されます。特性定義ツールバーの詳細については「7B.3 特性定義ツールバー」を参照してください。



路線線形の特性定義：これらの特性定義は、特に道路中心線の平面および縦断を描画するために使用します。道路中心線は「路線線形」—「道路」—「路線_基準線」の特性定義で描画します。交差する接続道路の中心線は「路線_基準線_付帯」特性定義で描画します。



線形の特性定義：これらの特性定義は、平面線形やジオメトリの描画に使用します。アクティブな縦断要素が作成されると、3D設計モデルに3D線要素が作成されます。この3D線要素は、2D設計モデルの平面要素と同じ特性定義に割り当てられます。

17B.1.a 道路モデルにおける線形の特性定義

道路モデリングでは、標準断面の点は2Dおよび3D線要素として押し出されます。作成される2Dおよび3D線要素に割り当てる特性定義は、標準断面の点のプロパティで設定します。標準断面の点に適用する特性定義は、「線形」の特性定義ライブラリを利用します。

現在の標準断面
名前: 01_主要幹線道路 A地域(4車線 B=40m)
説明:
☐ トンネル標準断面

表示
☒ 構成要素 ☐ 拘束
☒ 点の名前を表示
☐ すべての構成要素を表示

閉じる

標準断面の点の特性定義:
03_路肩

点のプロパティ
名前:
☐ 接続する点の名前:
特性定義:
☐ 横断片勾配フラグ
補足地形作成:
親2: 路肩端1
値: 0.00000
ラベル:
☐ 特性定義で平面的に拘束する
範囲:

舗装端_外側1
舗装端_外側1
!断面の点¥04 J-LandXML¥03_路肩
特性の定義なし
Linear
01 よく使う
02 イメージ線
03 標準断面の点
01 イメージ線
02 平面表現あり
03 平面表現なし
04 J-LandXML
00_その他
01_車道
02_中央帯
03_路肩
04_保護路肩
05_停車帯
06_歩道
07_植樹帯
08_副道
09_軌道敷
10_分離帯
11_側帯
12_路床
13_路体
14_広域/根拠

実行
閉じる

プロパティ
要素 (1)
複合要素: 舗装端_外側
縦断
連続線分

全般
路線
特性
特性定義 03_路肩
特性名 舗装端_外側
拡張
ストロークの定義

線形の特性定義
ライブラリ

2Dおよび3D設計モデルでの
標準断面の点

17B.1.b 道路モデリングのための標準断面ジオメトリの作成

通常、標準断面の点の一部が2D設計モデル内に、2D線要素として直接作成されます。2D線要素が標準断面の点から作成されるかどうかは、点の特性定義によって決まります。

「キャビネット」の「TREND ROAD スタンダード」の特性定義のプロパティで、「標準断面路線を作成」をTrueに設定すると、その特性定義を使用した標準断面の点は、2D線形要素を生成します。

TRDでは、「02 平面表現あり」および「04 J-LandXML」フォルダにある特性定義（例えば特性定義「03_路肩」）を標準断面の点のプロパティで設定すると、2D設計モデル内に2D線要素を生成します。一方で、「03 平面表現なし」フォルダの特性定義を設定した標準断面の点は生成されません。

キャビネット : TREND ROAD スタンダード

標準断面の点の特性定義 : 03_路肩 2D線要素として作成されます

特性定義「03_路肩」のプロパティでは「標準断面路線を作成」= True

「03 平面表現なし」フォルダの特性定義のプロパティでは「標準断面路線を作成」= False

現在の標準断面
名前: 18_区画道路(E=6m)
説明:
☐ トンネル標準断面

表示
☒ 構成要素 ☐ 拘束
☒ 点の名前を表示
☐ すべての構成要素を表示

プロパティ (TREND ROAD スタンダード)

選択 (1)
☒ 舗装端

選択
特性定義
線形
標準断面路線を作成: True
縦断特性表示様式: 線テンプレート_舗装端
線形特性表示様式: 線テンプレート_舗装端
アイテム

プロパティ (TREND ROAD スタンダード)

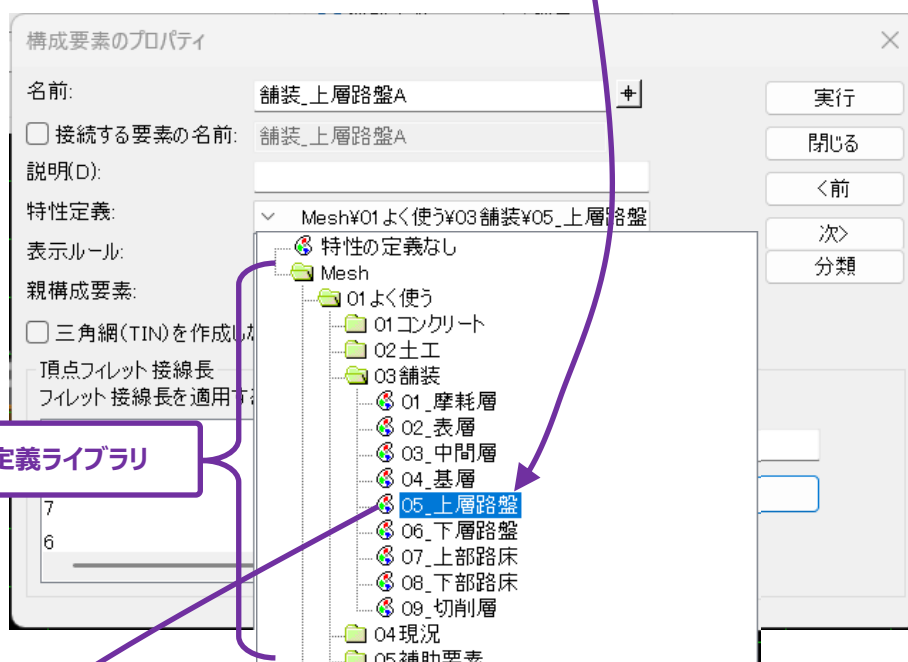
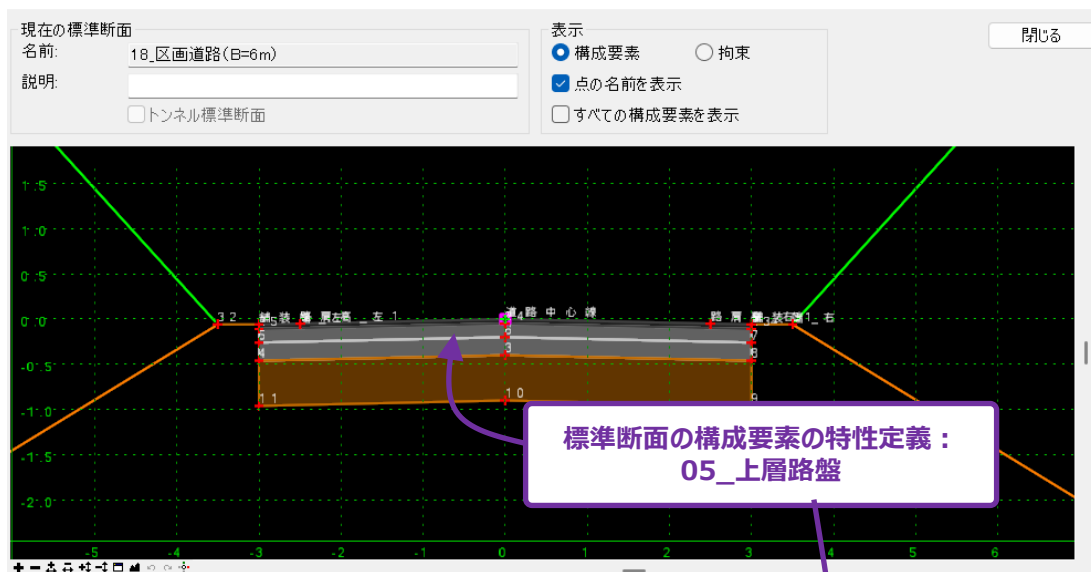
選択 (1)
☒ 補助要素

選択
特性定義
線形
標準断面路線を作成: False
縦断特性表示様式: 線テンプレート_設計図面-補助型
線形特性表示様式: 線テンプレート_設計図面-補助型
アイテム

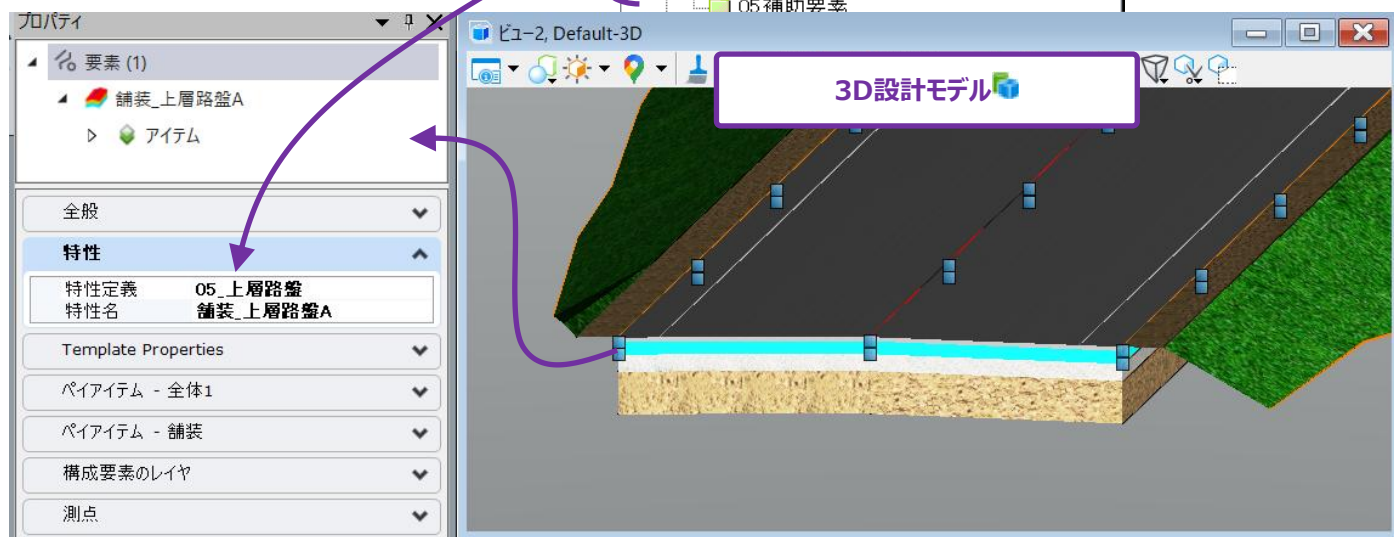
備考：特性定義の設定は、「キャビネット」の「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンからアクセスします。特性定義の設定と編集については、「17C 特性定義の設定と編集」を参照してください。

17B.2 メッシュの特性定義

メッシュの特性定義は、道路モデル、線形テンプレート、サーフェステンプレートのモデリングにおいて、標準断面の構成要素に割り当てられます。

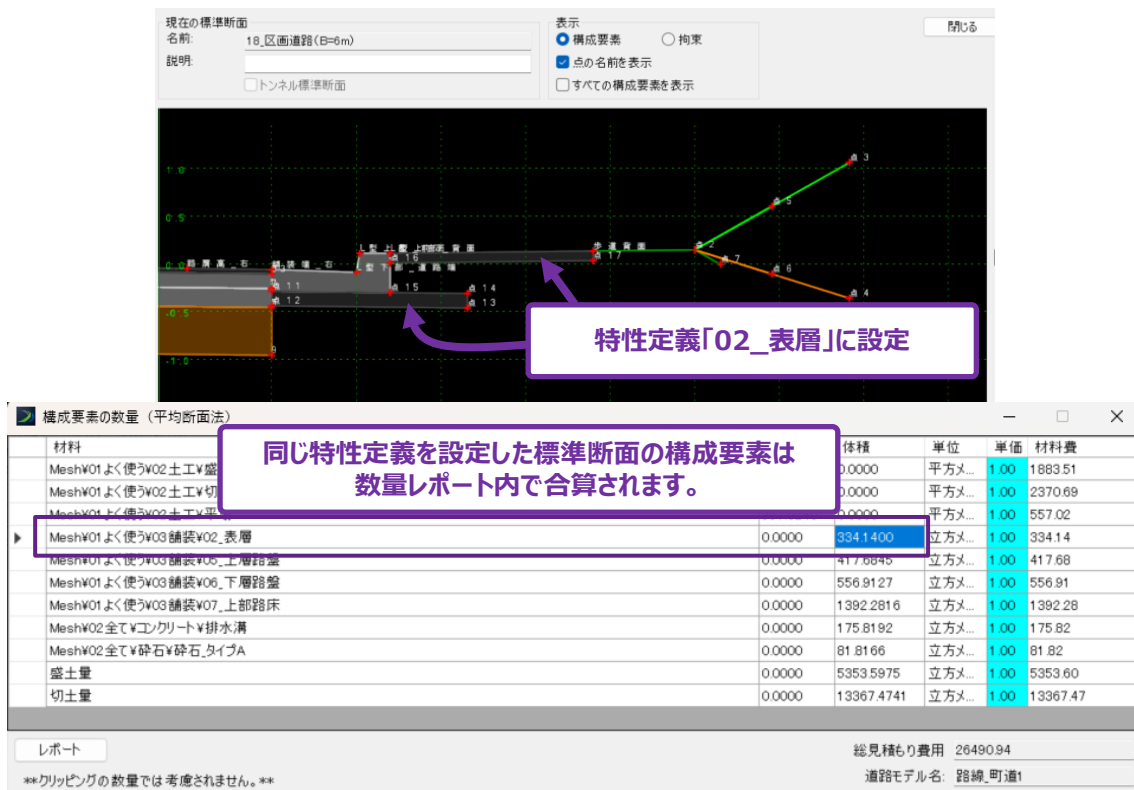


メッシュの特性定義ライブラリ

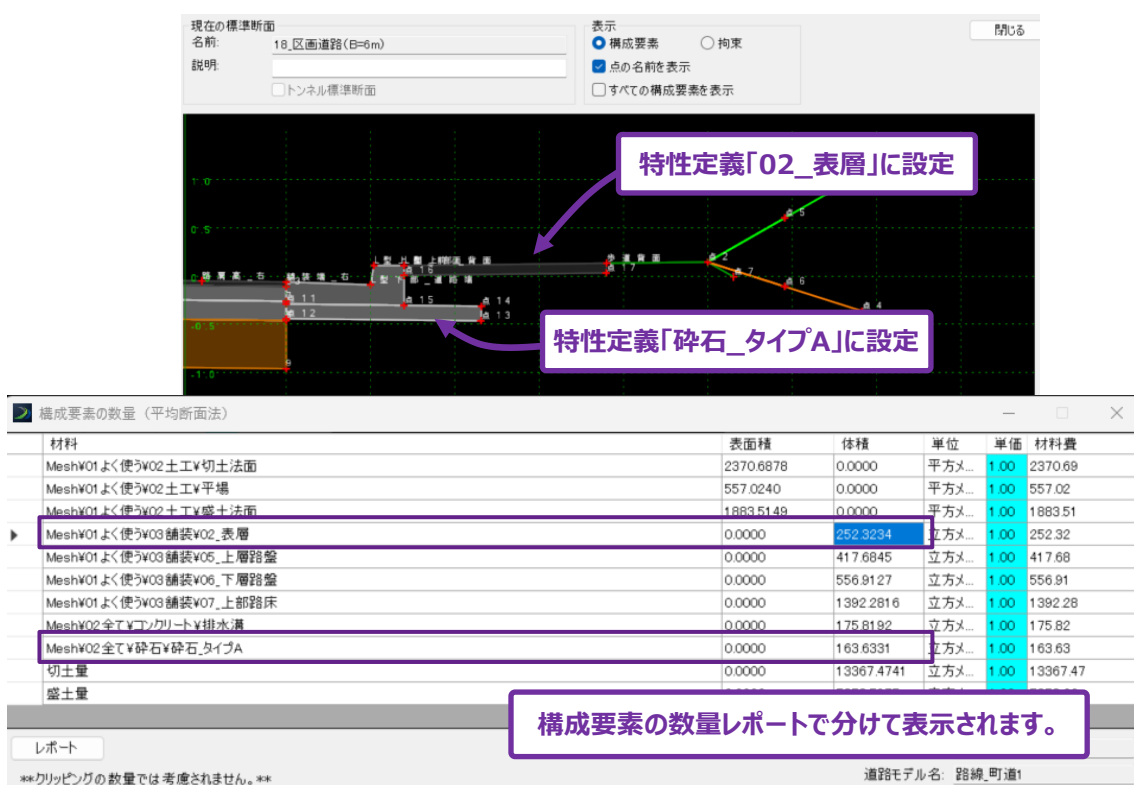


17B.2.a 数量算出におけるメッシュの特性定義

数量計算する際、同じメッシュの特性定義を持つ標準断面の構成要素は、数量レポート内で合計されます。例えば、互いに接続していない2つの標準断面の構成要素に、同じ特性定義が割り当てられている場合、数量レポートではそれらの体積が合計されて表示されるため注意が必要です。

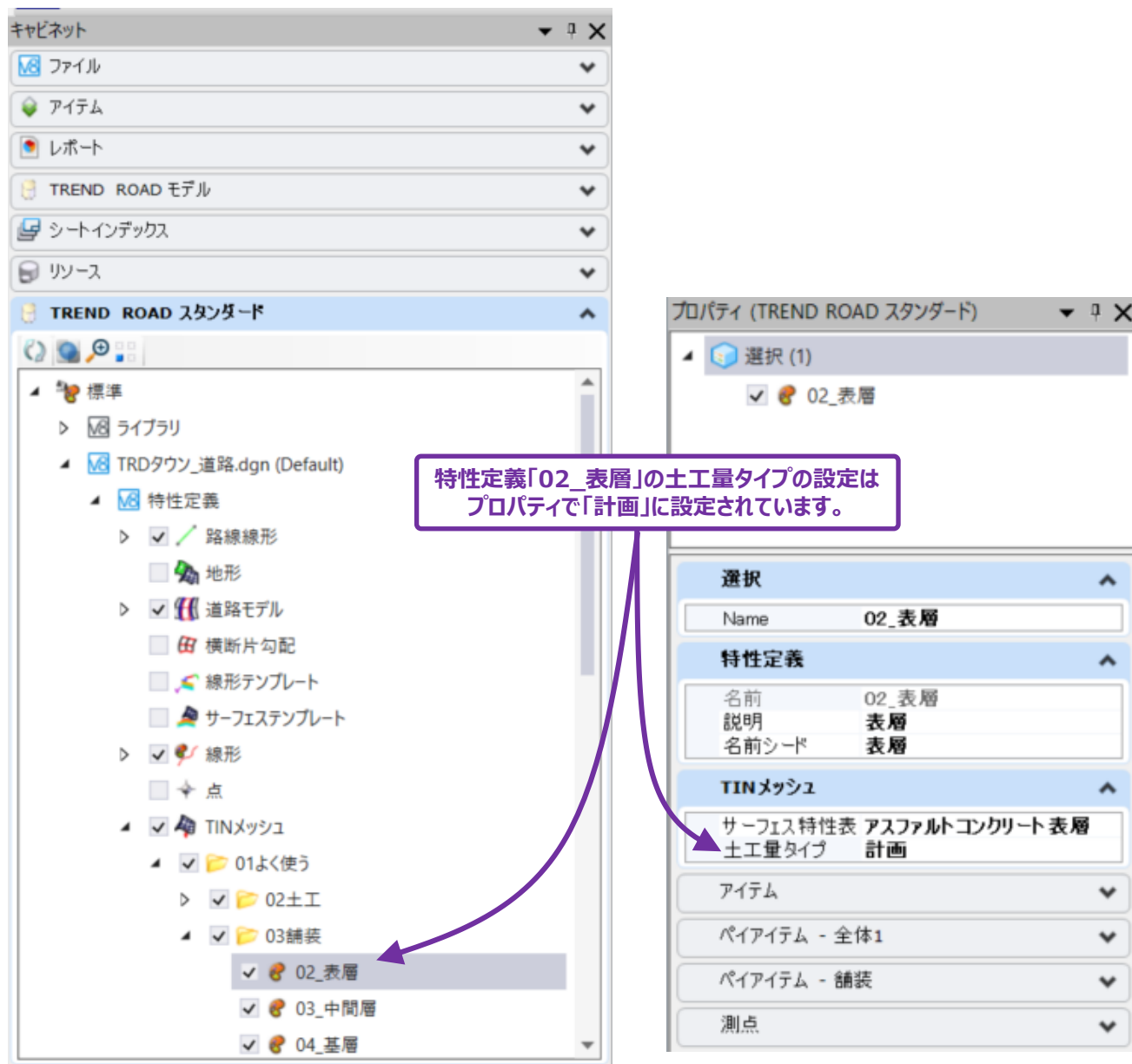


標準断面の構成要素には、異なる特性定義を割り当てることで、数量レポートの数値を分けることができます。



17B.2.b 土工量計算のための土工量タイプの設定

土工量タイプは、メッシュおよび地形の特性定義のみに適用される特性定義の設定です。土工量タイプは、メッシュおよび地形の数量計算での分析方法に影響します。土工量タイプの詳細については、「20G 高度な 設定情報：構成要素の特性定義と土工量タイプ」を参照してください。



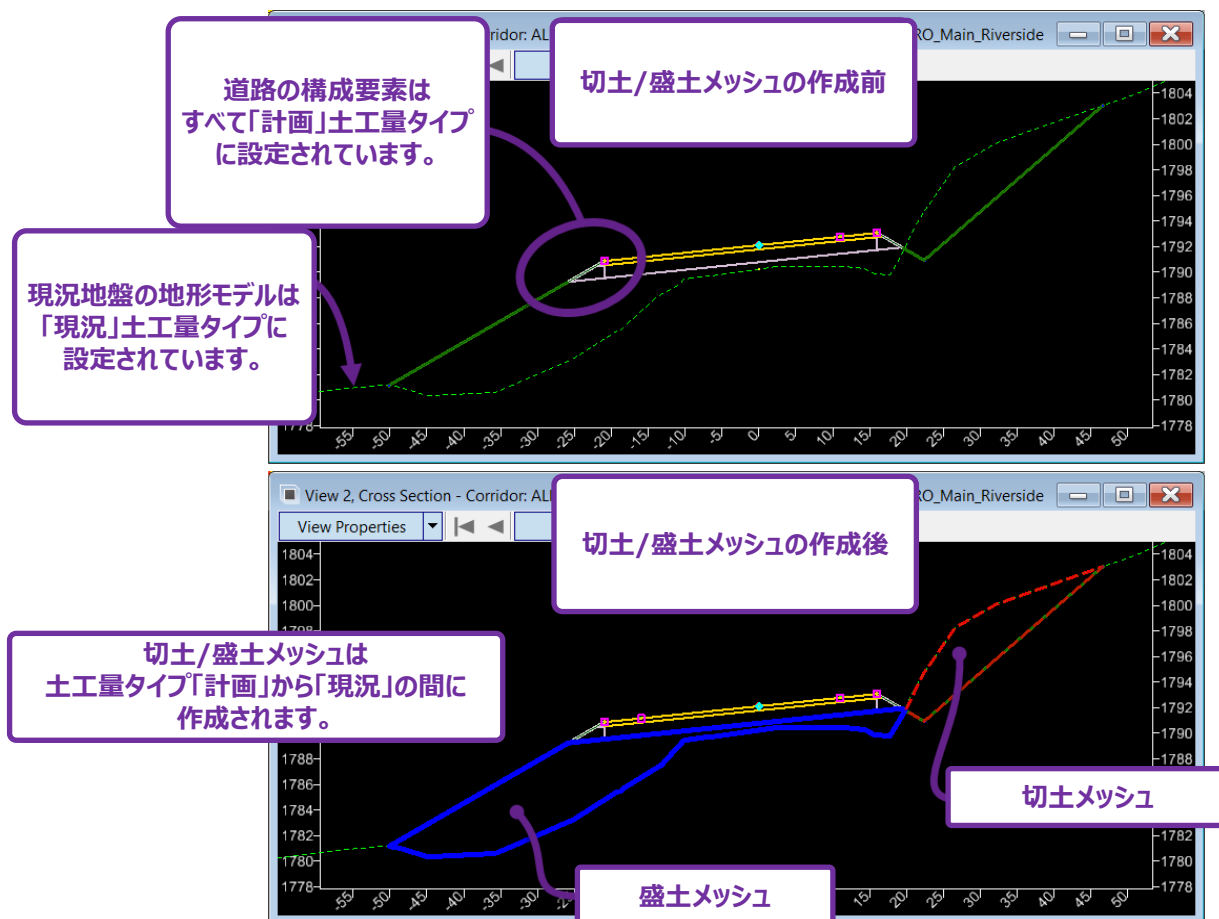
備考：JAPAN作業環境では、メッシュおよび地形の特性定義に対する土工量タイプがあらかじめ設定されています。ほとんどの場合、ユーザーが土工量タイプを変更する必要はありません。新規メッシュの特性定義を作成している場合には、土工量タイプが適切に設定されていることを確認してください。計画材質（アスファルトや骨材など）は、「計画」土工量タイプに設定する必要があります。要素が「計画」土工量タイプに設定されている場合、その要素を配置するための切土盛土量は、現況地盤の高さを基準として計算されます。新規メッシュの特性定義を、土工量計算に考慮しない場合は、土工量タイプを「なし」に設定します。

「切土盛土量を作成」を使用して切土/盛土メッシュを生成し、それらを合計して数量レポートに集計できます。切土/盛土メッシュを生成する際は、すべての標準断面の構成要素および地形モデルに設定されている土工量タイプが参照されます。

備考：「切土盛土量を作成」については、「20B 切土盛土量を作成と土工量の算出」を参照してください。

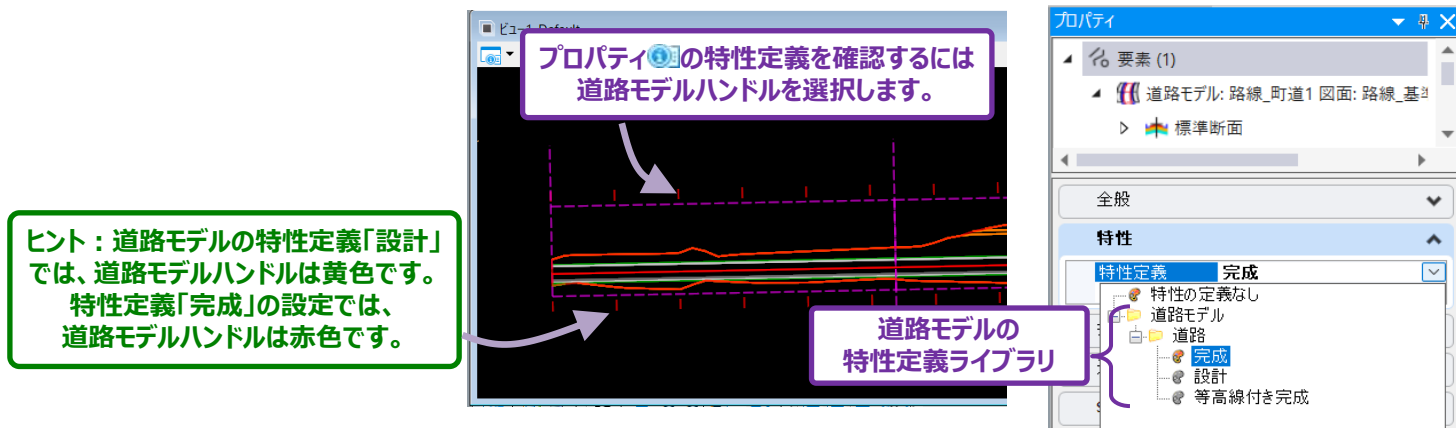
下図の例では、すべての道路モデルの構成要素が、「計画」土工量タイプに割り当てられています。「切土盛土量を作成」では、土工量タイプ「計画」の構成要素の下端側を探索し、モデルの最下面（設計要素の下層で定義される基準面）を作成します。現況地形モデルは、「現況」土工量タイプに割り当てられています。

切土/盛土メッシュは、土工量タイプ「現況」の地形モデルから、土工量タイプ「計画」の構成要素の最下面の間に作成されます。



17B.3 道路モデルの特性定義

道路モデル作成時にダイアログボックスで指定する特性定義は、主に道路モデルの密度に影響します。道路モデルハンドルを選択すると、プロパティで道路モデルの特性定義を確認できます。詳細は、「9D.2 道路モデルの特性定義：設計と完成」を参照してください。

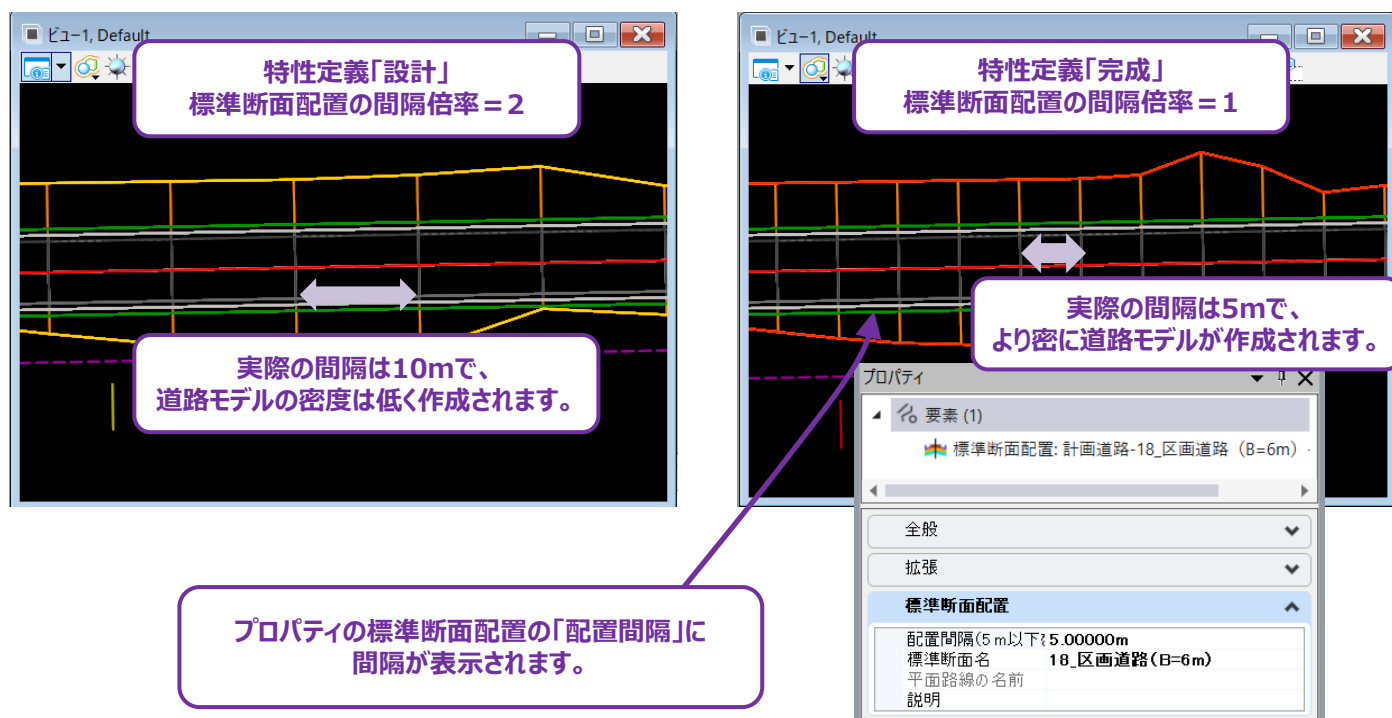


設計：特性定義「設計」が設定されている場合、標準断面の配置間隔が2倍になります。下図のように、標準断面配置プロパティでは、間隔は10mに設定されていても、特性定義「設計」を設定していると間隔が2倍に計算されるため、間隔は20mです。

完成：特性定義「完成」では、標準断面配置の間隔は1倍です。実際の間隔は、標準断面配置プロパティ内の間隔と一致します。

推奨：特性定義「完成」は、標準断面配置の間隔に乗数が適用されないため動作しやすいですが、道路モデルの密度が高くなるため、処理時間が長くなる可能性があります。特性定義「設計」に設定すると、道路モデルの密度が低くなり、処理が速くなります。処理時間に問題がなければ、道路モデルの特性定義を「完成」に割り当てたままにしても問題ありません。複雑な道路モデルの場合、道路モデル、線形、縦断、および道路モデルと相互作用する要素の編集を行うときは、特性定義を「設計」に設定することを推奨します。また、次のタスクを実行する場合は、特性定義を「完成」に設定します。

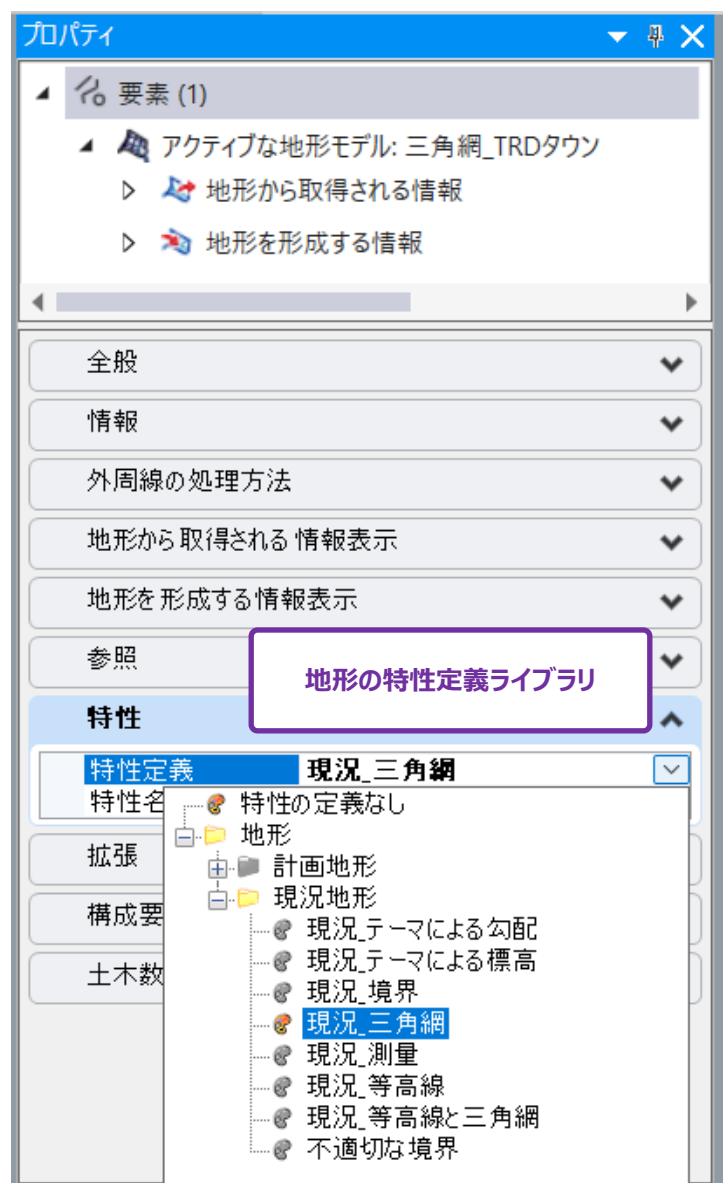
- **数量算出：**道路モデルの密度が高ければ、数量はより正確になります。
- **道路モデルから計画地形モデルを作成：**計画地形モデルはより滑らかで、より正確な地形が作成されます。
- **図面作成：**特性定義「完成」に設定すると、標準断面配置セクションが追加されるため、切土/盛土ラインが若干変更されます。切土/盛土ラインは、計画地形モデルおよび数量算出の結果と一致させることを推奨します。



等高線付き完成：この特性定義に切り替えると、道路モデルの周囲に等高線が表示されます。等高線は3D設計モデルに配置され、3D設計モデル参照の表示がオンになっている場合にのみ、2D設計モデルで見ることができます。

17B.4 地形の特性定義

地形の特性定義は、地形モデル要素とともに使用されます。地形の特性定義ライブラリは、地形モデルを選択しプロパティから確認できます。



地形の特性定義には2つのカテゴリがあります：

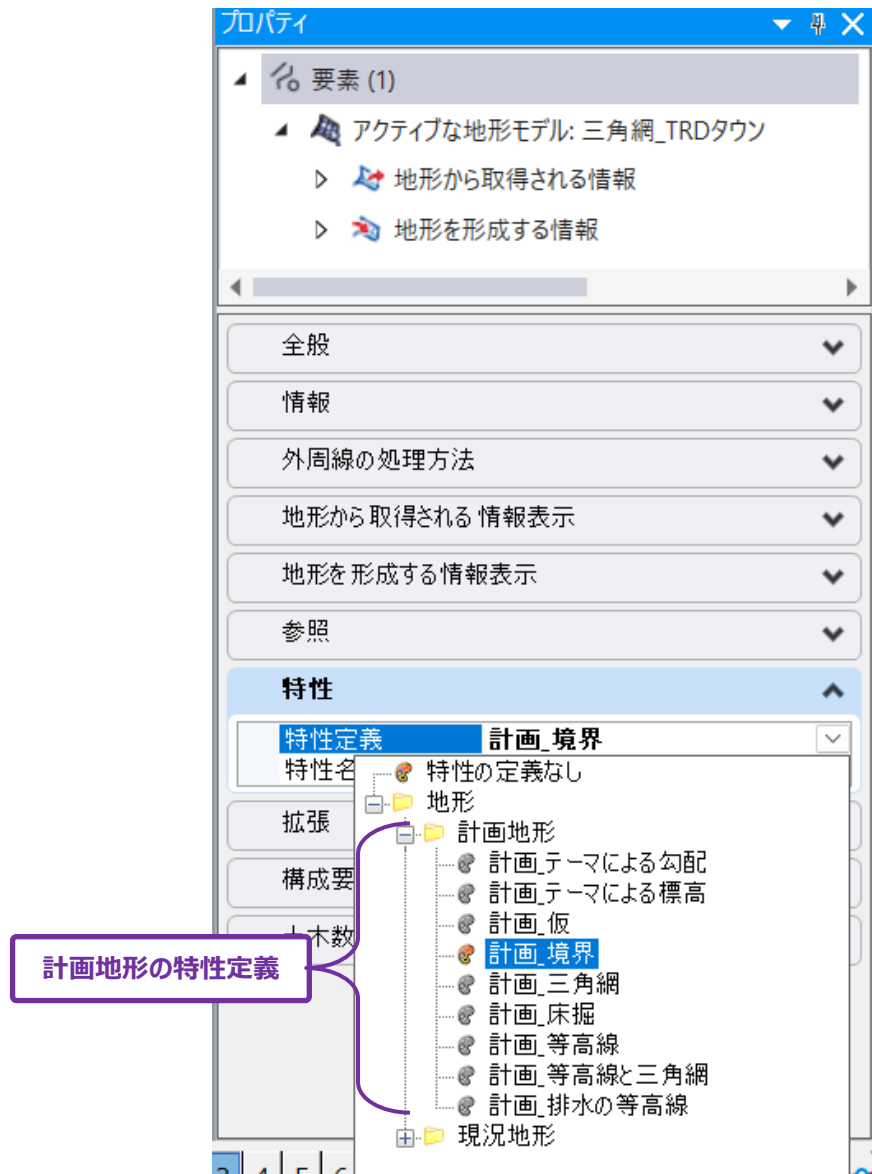
地形モデルの特性定義カテゴリ		
カテゴリ：	説明：	土工量タイプ
現況地形	現況地形サーフェスを表現する地形モデル。	現況
計画地形	計画特性の計画完成面を表す地形モデル。	計画

これらのカテゴリは、地形モデルに対して主に2つの影響を与えます：

- 印刷の外観：紙やPDFに印刷する際、これらのカテゴリは等高線および等高線ラベルの色や線幅に影響します。例えば、「現況」カテゴリは、色と線幅が薄い等高線とラベルを作成します。「計画」カテゴリでは、より濃く太い等高線が作成されます。
- 数量算出：土工量タイプは、土工量計算で地形モデルをどのように扱うかを定める特性定義の設定です。土工量タイプはメッシュの特性定義にも適用されます。「17B.2.b 土工量計算のための土工量タイプの設定」を参照してください。

地形カテゴリのドロップダウンを展開すると、特性定義の一覧が表示されます。特性定義名は、地形モデルのどの構成要素が表示されるかを示します。例えば、特性定義「計画_境界」は、計画地形モデルの境界線のみを表示します。

備考：地形の特性定義の描画については、「5B.1 現況地形モデルの特性定義の設定」を参照してください。



17C 特性定義の設定と編集

特性定義の設定は、特性定義エディタで表示・編集できます。特性定義エディタは、[キャビネット] の「TREND ROAD スタANDARD」ドロップダウンからアクセスできます。

下図は、線形の特性定義の設定を示しています。特性定義の設定は、選択した特性定義のタイプによって若干異なります。

1	特性定義エディタを開くには、[キャビネット] の「TREND ROAD スタANDARD」から特性定義を選択して右クリックし、「特性定義を編集」を選択します。
2	特性定義タイプの設定： 特性定義のタイプに固有の設定値です。下図のように線形の特性定義を選択すると、「標準断面路線を作成」設定が表示されます。「土工量タイプ」設定はメッシュまたは地形の特性定義を選択すると表示されます。
3	特性表示様式： 特性表示様式の設定は、特性定義のグラフィカルな外観と注釈を決めます。特性定義エディタの左側でドロップダウンを展開し、特性表示様式を表示してください。ほとんどの特性定義タイプには、表示様式設定が1つだけあります。しかし、路線線形と線形の特性定義タイプには、線形用と縦断用の2つの表示様式があります。線形特性表示様式は、2D設計モデル および3D設計モデル における特性定義の外観をコントロールします。縦断特性表示様式は、縦断モデルでの表示をコントロールします。

特性表示様式を確認するにはドロップダウンを展開します。

TREND ROAD STANDARD

2 特性定義タイプの設定

3 特性表示様式

特性定義エディタ

名前シード：
要素の作成時、特性名が割り当てられていない場合、この名前シードが使用されます。

線形の特性定義を選択

1 右クリックし「特性定義を編集」を選択します。

17C.1 特性表示様式と要素テンプレート

特性表示様式は、特性定義が異なるモデルや動的ビューで、どのように表示されるかを決定する設定の集合です。

特性表示様式では、要素テンプレートを使用して、特定のモデルや動的ビューにおける特性定義のグラフィカルプロパティや属性を設定します。通常、要素テンプレートはレイヤ、色、線種、太さといったシンプルなプロパティで構成されます。ただし、セルや材質など、その他の設定を要素テンプレートに割り当てることもできます。

Feature Definition - 舗装端

舗装端

線形

縦断特性表示様式

注釈グループ

既定

縦断

縦断の交点を投影

縦断の投影

線形特性表示様式

既定

既定の要素テンプレート

図面

縦断の交点を投影

要素テンプレート

3次元

動的な断面

特性表示様式の設定

Parent Feature Definition

線形特性表示様式

線テンプレート_舗装端

既定

既定の要素テンプレート

モデリング点テンプレートY舗装Y線テンプレート_舗装端

図面

注釈グループ

None

要素テンプレート

なし

弧要素テンプレート

なし

クロソイド要素テンプレート

なし

縦断の交点を投影

要素テンプレート

モデリング点Y交差する縦断

3次元

注釈グループ

None

要素テンプレート

なし

動的な断面

交差する点の要素テンプレート

なし

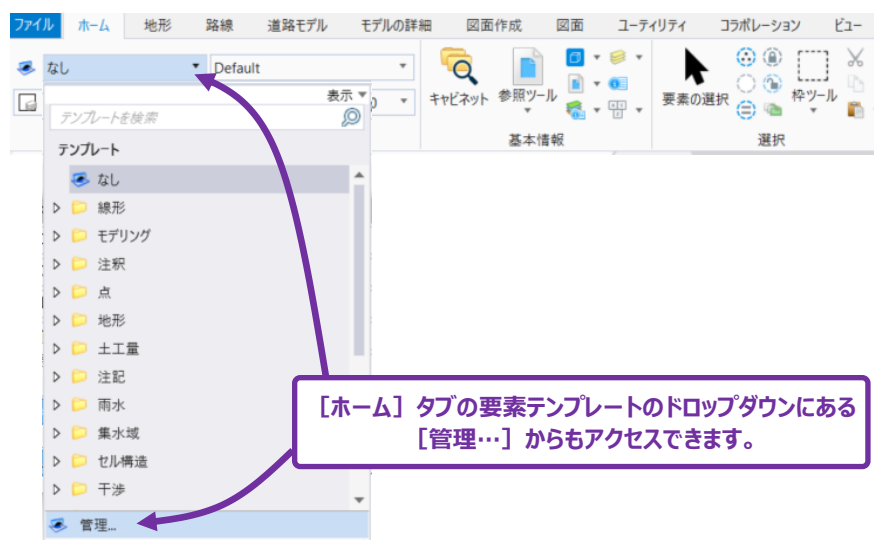
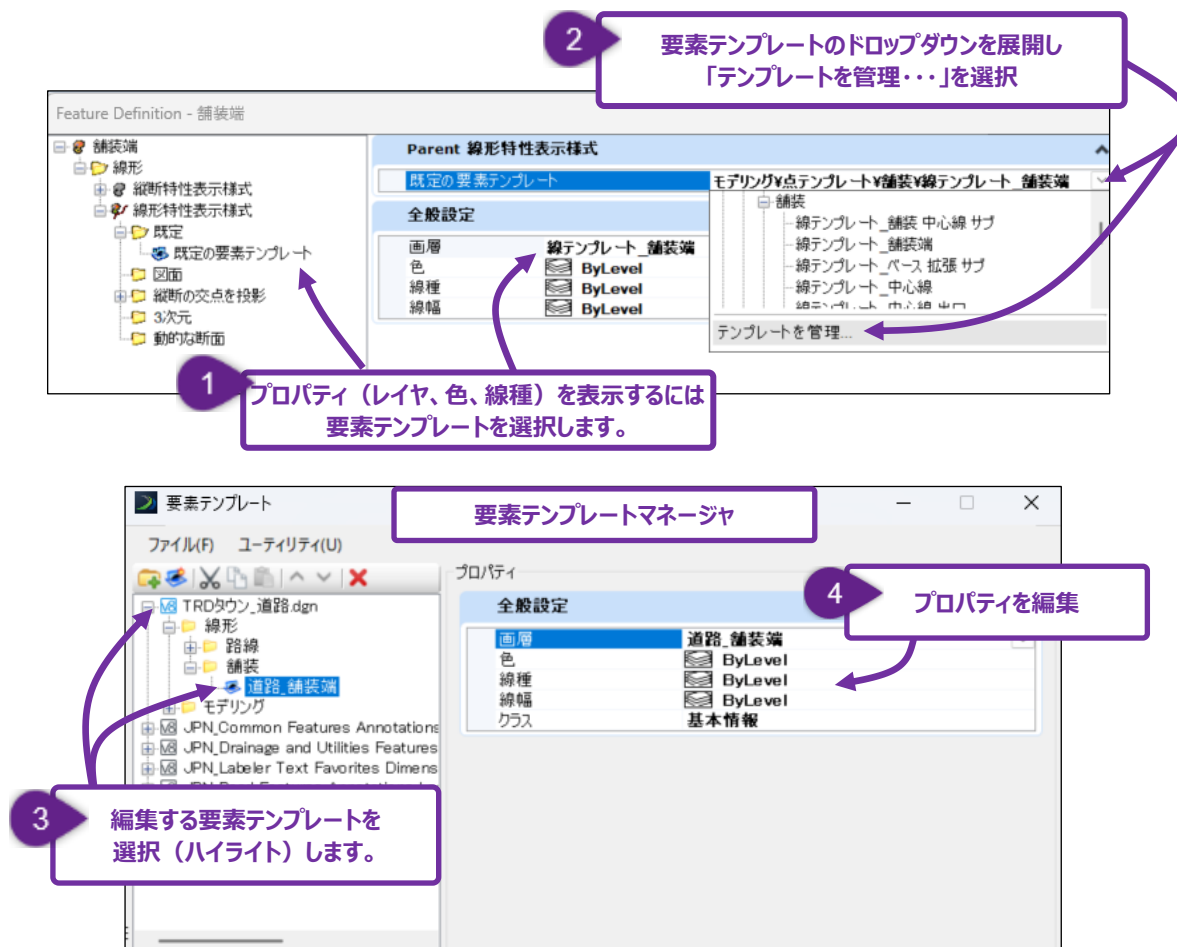
各サブフォルダを展開し要素テンプレートを表示します。

適用されている要素テンプレート

1	規定：マスターの要素テンプレートです。既定の要素テンプレートは、要素テンプレートがサブメニュー（例：図面、縦断の交点を投影、3次元、動的な断面）に割り当てられていない場合に使用されます。 例えば、上図では「3次元」サブメニューの要素テンプレートが「なし」に設定されていますが、これは3D設計モデルで特性定義が表示されているときに、既定の要素テンプレートが使用されることを意味します。
2	図面：2D設計モデルの特性定義プロパティを決定します。このカテゴリは、線形要素の円弧部分とクロソイド部分に対して、個別の要素テンプレートを割り当てることができる点が特徴です。 備考：特性定義「路線_基準線」は、これらのオプションを使用して、直線部分を赤、円弧をオレンジ、クロソイドを黄色で表示します。
3	縦断の交点を投影：このカテゴリは、「縦断の交点を投影」を使用する場合に関連します。 備考：ほとんどの特性定義では、「モデリング/点/交差する縦断」要素テンプレートを使用し、「縦断の交点を投影」を使用するとピンクの点が表示されます。
4	3次元：3D設計モデルの特性定義プロパティを決定します。
5	動的な断面：道路モデルの横断ビューの特性定義プロパティを決定します。 備考：例えばガードレールの特性定義は、セルを含む要素テンプレートを使用して、横断ビューにガードレールのグラフィックを表示します。

17C.2 要素テンプレートの編集

要素テンプレートは、[要素テンプレートマネージャ] で編集します。「要素テンプレートを管理…」を選択すると下図のようになります。



17D 新しい特性定義の作成

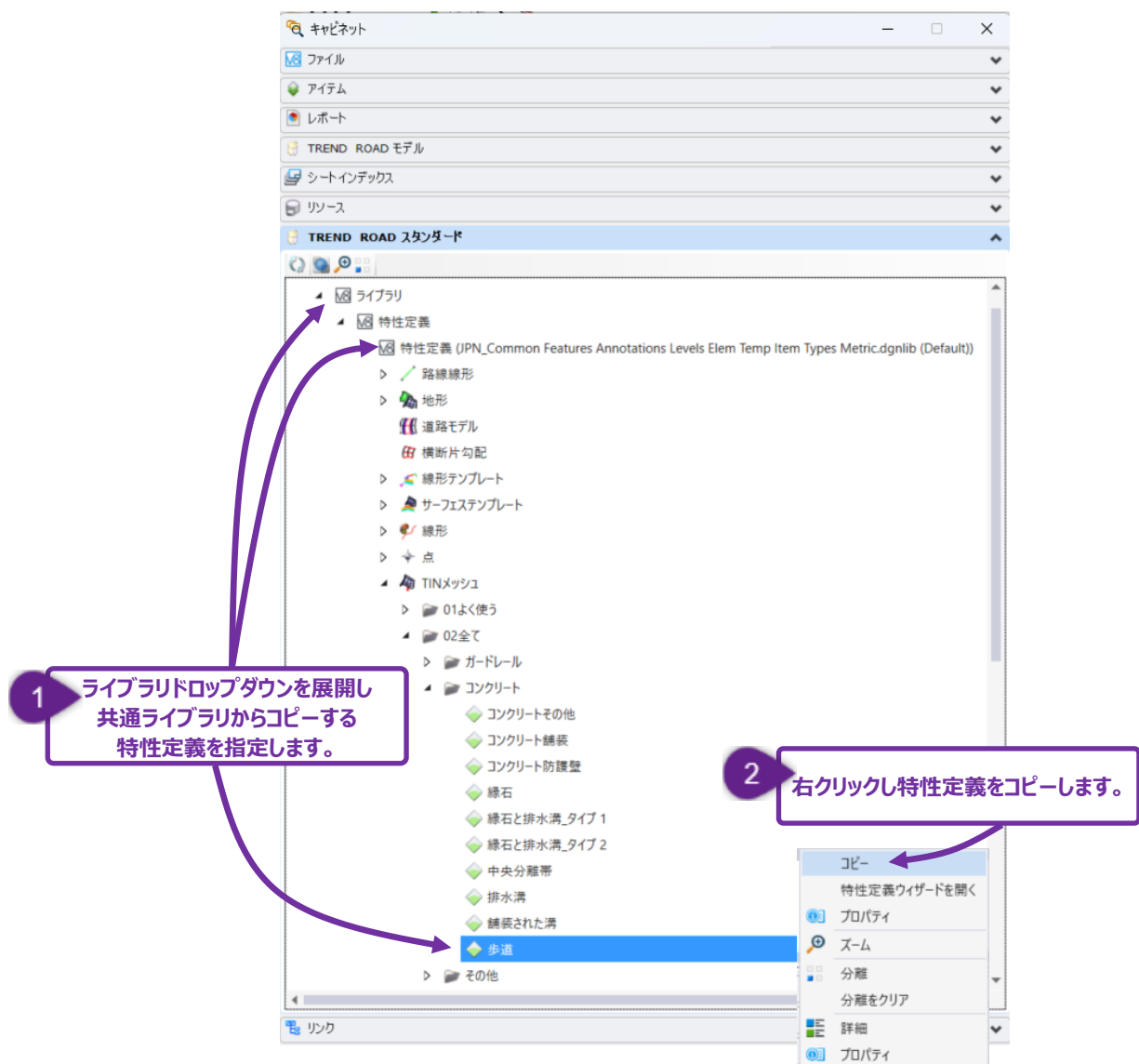
このセクションでは、ユーザーが新しい特性定義を作成する方法を説明します。例として、道路モデル、線形テンプレート、サーフェステンプレートで使用する新しいメッシュの特性定義を作成します。この作業フローは、路線線形および線形の特性定義を含む、すべての特性定義タイプにも適用できます。

この作業フローを完了すると、新しい特性定義が「標準断面エディタ」上で選択可能になります。ただし、新しい特性定義は作業したTRDファイル内でのみ利用できます。

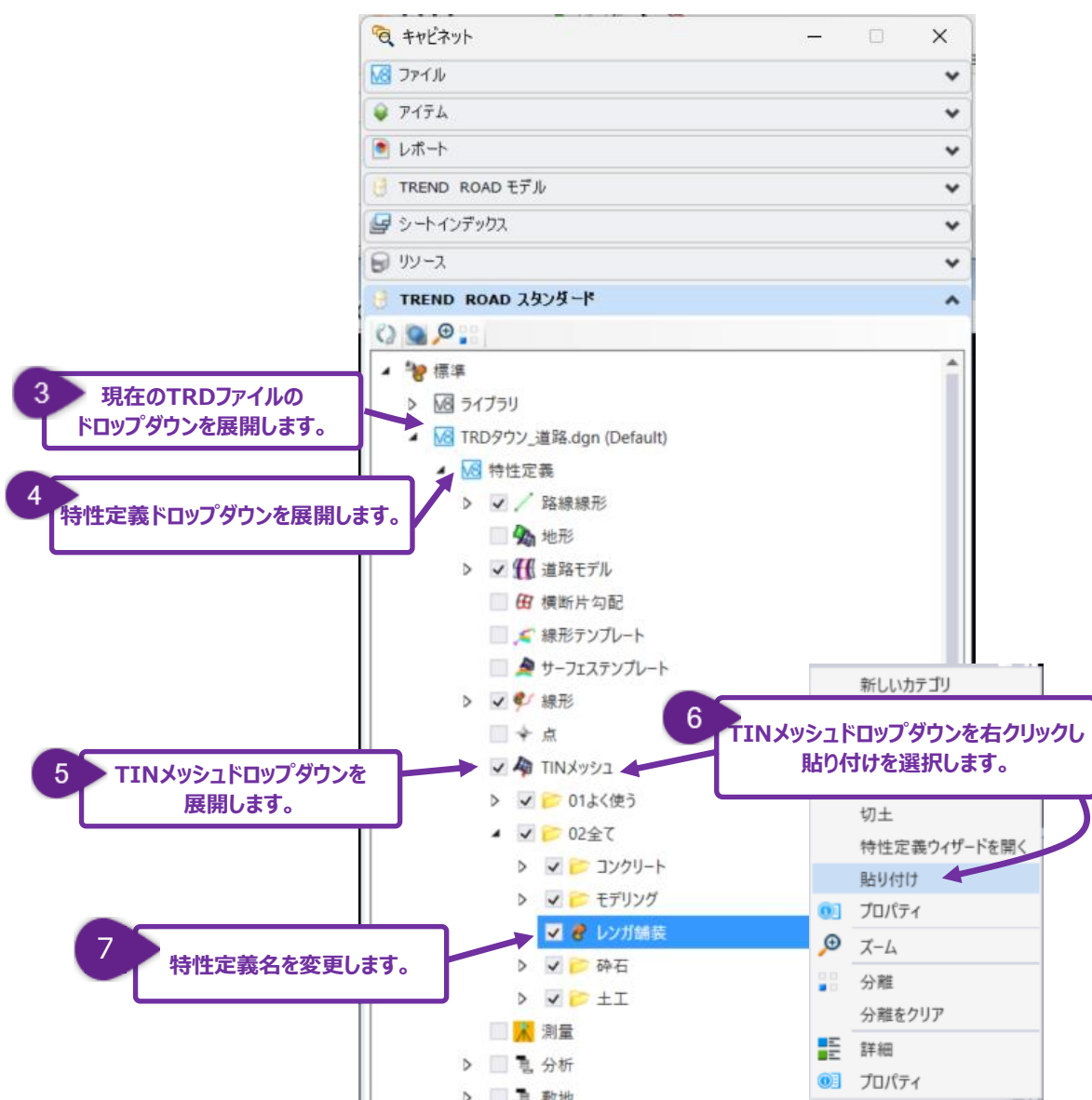
推奨：新しい特性定義をゼロから作成することは推奨されません。通常は、作成したい特性定義に類似した特性定義をコピーし、名前を変更してください。新しい特性定義の作成は、特性定義の共通ライブラリに類似の特性定義が見つからない場合にのみ行ってください。

この例では、レンガ舗装という名前のメッシュの特性定義を新規作成します。特性定義の共通ライブラリには「レンガ舗装」という名前の特性定義はないため、類似の特性定義「歩道」をコピーし、新しい特性定義のベースとして使用します。

1	「TREND ROAD スタンダード」のライブラリを展開し、特性定義の共通ライブラリの「特性定義(JPN_Common Features Annotations Levels Elem Temp Item Types Metric.dgnlib(Default))」を表示します。ライブラリドロップダウンから類似の特性定義を探します。
2	特性定義を右クリックし、コピーを選択します。

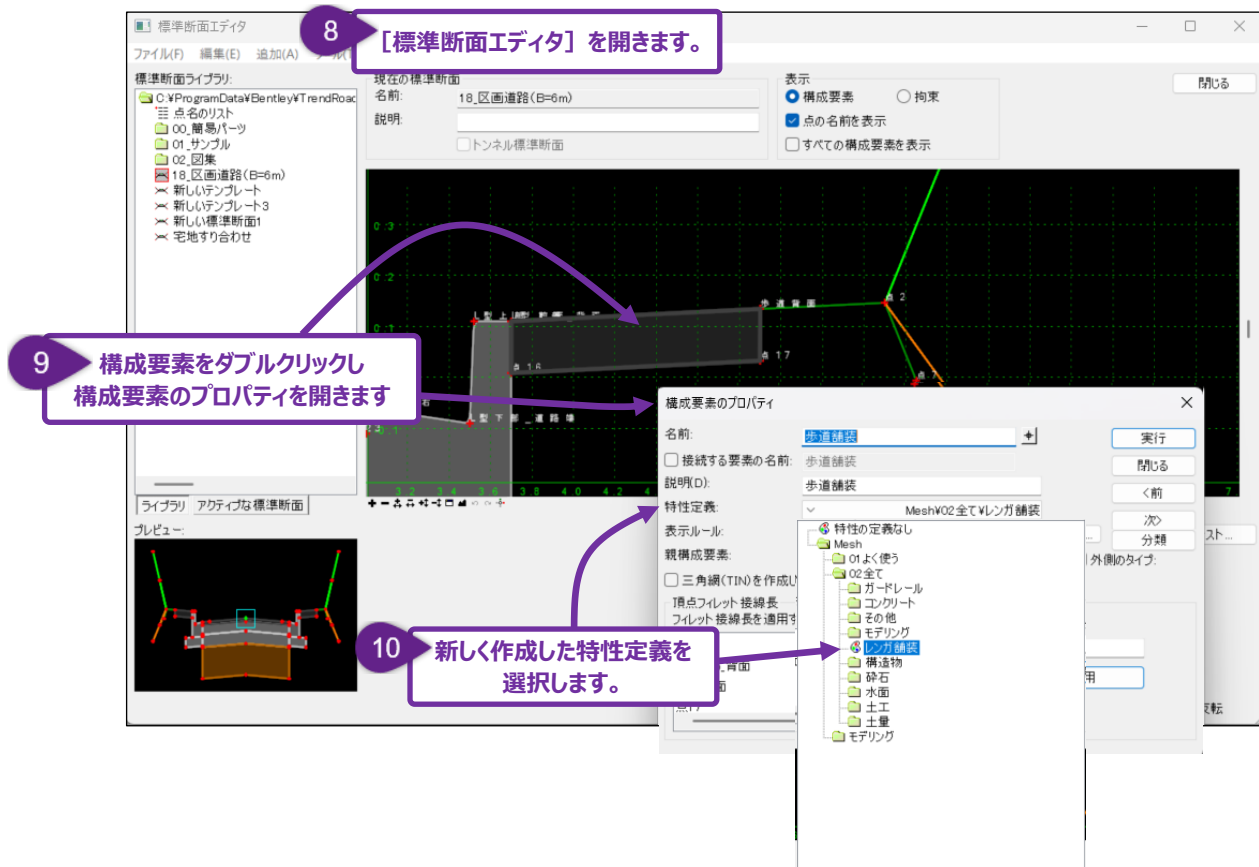


3	「現在のTRDファイル」のドロップダウンを展開します。
4	特性定義ドロップダウンを展開します。
5	TINメッシュのドロップダウンを展開します。
6	TINメッシュのドロップダウンを右クリックし、貼り付けを選択します。
7	新しい特性定義に適切な名前を割り当てます。



新しい特性定義は、コピー元の特性定義と同じレイヤ、属性、プロパティを持ちます。そのため、特性定義と対応する要素テンプレートを編集し、モデリング時に表示される色などを変更しておく必要があります。要素テンプレートへのアクセス方法は、「17C 特性定義の設定と編集」を参照してください。

新しい特性定義が作成されると、[標準断面エディタ]の特性定義ライブラリに表示され選択できるようになります。必要な構成要素に割り当ててください。

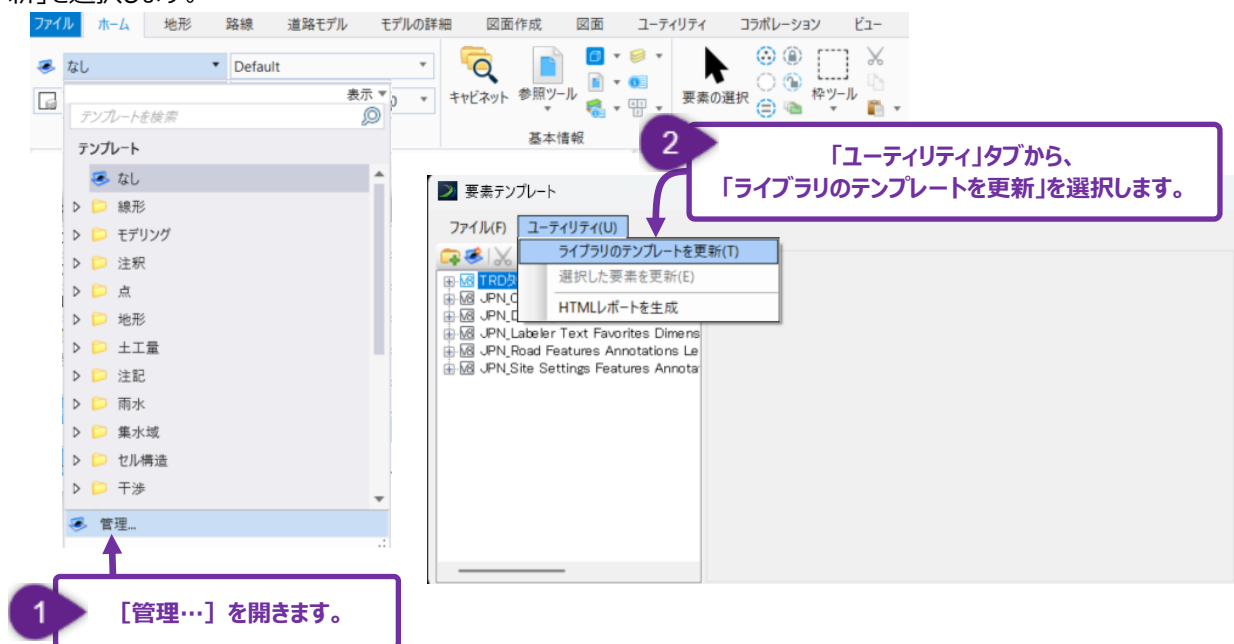


17E 同期されていない特性定義や路線注釈の修正

TRDでは、dgnファイル内で一度使用した特性定義や要素テンプレートは、アクティブなdgnファイル内にローカル保存されます。TRDの共通ライブラリ設定ファイル(.dgnlib)がアップデートされても、過去に作成したdgnファイル内には自動適用されません。そのため、dgnファイル内で要素テンプレートのプロパティ(色、線種など)を手動で誤って直接書き換えたり、上書き変更した場合や、古いバージョンで作成されたdgnファイルを参照ファイルとしてアタッチした場合、dgnファイル内の特性定義や路線注釈が、最新の「TREND ROAD スタンダード」ライブラリと同期しない場合があります。同期が外れると、路線注釈の文字が誤った位置に配置されたり、フォントや色などの文字属性が正しく反映されなくなります。また、特性定義が設定された要素が、正しくない色、線種、線幅で表示される場合も、「TREND ROAD スタンダード」ライブラリと同期が取れていない可能性があります。古いdgnファイルを最新の共通ライブラリの設定に上書き・再同期する方法を説明します。

特性定義と路線注釈を「TREND ROAD スタンダード」ライブラリに更新するには、2つのステップがあります。

- ① 「ホーム」タブの要素テンプレートドロップダウンから「管理…」を開きます。「ユーティリティ」タブの「ライブラリのテンプレートを更新」を選択します。



- ② 「キャビネット」の「TREND ROAD スタンダード」ドロップダウンを開きます。アクティブファイルのライブラリを右クリックし、「dgnlibから標準を更新」を選択します。[要素テンプレートマネージャ]と「TREND ROAD スタンダード」の両方のドロップダウンで更新すると、特性定義と路線注釈は、共通ライブラリの設定に同期した状態に変更されます。

